

下眼瞼下制術とは

下眼瞼下制術とは、下まぶたの目尻側のカーブを下げることでたれ目を作る手術です。下まぶたの靭帯組織を縫い縮め、黒目よりも外側が下向きになるように形成します。なお、皮膚切除法が必要な場合もあります。

つり目を改善し、たれ目にすることで、癒やし系の愛らしい印象にすることができます。

下眼瞼下制術後の状態・ケアについて

・当日は手術部位に触れたり、濡らさないようご注意ください。術後24時間経過後はまぶた周辺も含め洗顔フォームを使用して優しく洗顔可能です。

・当日はぬるま湯で軽いシャワーを浴びる程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、長時間の入浴や熱いお風呂は避け、なるべくシャワーのみにしていただくことをおすすめします。

・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。

・アイメイクは1週間後、抜糸をしてから可能です。ただし、最初のうちはまぶた周辺に触れる際はなるべく優しく、できる限り負担をかけないようにしてください。

・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。

・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。

・術後1週間後の抜糸完了まではコンタクトレンズの装着はお控えください。術後しばらくは目の周りに傷があるため、まぶたに違和感があったり、目がゴロゴロすると感じる場合があります。コンタクトレンズは、違和感がなくなってからの使用をおすすめいたします。

※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。

※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。

1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

下眼瞼下制術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

目の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出ることがあります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の部位の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖、表情など様々な原因で完全な左右対称には仕上がらない場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね1~2週間で腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や抜糸等の外科的処置が必要となります。

【目のゴロツキ、充血、結膜炎】

術後、目がゴロゴロするような違和感や充血などが出る場合があります。目の違和感が続くようであればご連絡ください。

【赤い涙】

術後数日は涙を流した時、結膜側からの出血により赤い涙が出る場合があります。時間と共に軽快していきます。

【結膜浮腫・出血】

手術後に眼球結膜浮腫・出血を生じることがあります。

【外反、目が閉じにくい】

手術後、一時的に外反や目が閉じにくいような症状が出る場合があります。

【睫毛内反】

適応範囲を超えて過度に結膜側のみで下制を行うことにより、逆さまつげになることがあります。医師の判断により皮膚切除が必要である場合は、別途料金がかかります。

【肥厚性瘢痕（ケロイド）】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がってしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

下眼瞼下制術をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、まぶたに怪我や炎症がある方、麻酔剤にアレルギーをお持ちの方、その他医師が不可と判断した場合は手術を受けられません。

©2024 医療法人社団 桜恵会